

各チーム携行機材リスト

第 1 次 チーム 医薬品

資料 2

Nos. (アルミケース)	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
1	ラクテック 500ml	45		
2	クロラムフェニコール 100T×15	1,500T		
	ピクシリン 500カプセル×2	1,000		
	ピクシリンドライシロップ 500g	500包		
	アクロマイシン 100カプセル×10	1,000		
	アリナミンF	2,000T		
	ハチビタン 1kg	1,000包		
	アスピリン 30T×50	1,500T		
	ソリタ顆粒 100×60	600包		
	ヨードチンキ 500ml	1		
	フラジール 100T×10	1,000T		
	コンバントリン 200×3	600包		
	バクタ 100T×5	500T		
3	ラクテック 500ml	45		
4	テラマイシン眼軟膏 3.5g	50		
	V-ロート 15ml	50		
	オイラックス軟膏 500g	2		
	アクリノール 500g	2		
	クロマイパルミテート 250mg×500	500		
	パンビタン 200T×15	3,000T		
	アスピリンアルミニウム散 1,000g	1,000g		
	コンバントリン 500T×1	500T		
	ミノマイシンドライシロップ 20mg×100	100包		
	ピオクタニンH 100ml	1		
	ペニシリンG 10V×5	50V		
	プロカイン ペニシリンG 10V×3	30V		

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
4	蒸留水 2ml×50	50 A		
	スミスリン	10		
	リペラン 100 ml	15		
	イソジン	2		
	ロペミン 100 カプセル×1	100		
	ヒビテン 500 ml	1		
	オキシドール 500 ml	1		
	キシロカインゼリー 30ml×5	60		
	クロマイ点眼液 500 ml	1		
	新三共胃腸薬 500 T	500 T		

第1次チーム医療機材

C/Nos. (アルミケース)	Description of Goods	Quantity	Weight		Measure- ment	
			net	gross		
12	リットマン型聴診器	3				
	大貫氏打診器 針ハケ付	2				
	体温計 平型	10				
	タイコス型血圧計 DR-A2	2				
	ペンライト MS	3				
	舌圧子	5				
	メジャー 自動 2 m	1				
	綿子 ディスポ 咽鼻用 100本入	1				
	テストテープ 30枚入	4				
	マッシュュー氏 持針器 1.6 cm	1				
	コッヘル型止血鉗子 有鉤直 1.4 cm B/L	2				
	ペアン型止血鉗子無鉤直 1.4 cm B/L	2				
	モスキート型止血鉗子有鉤直 1.25 cm B/L	2				
	モスキート型止血鉗子無鉤直 1.25 cm B/L	2				
	外科剪刀 両鈍反 1.4 cm	1				
	外科剪刀 片尖反 1.4 cm	2				
	外科鉗子 有鉤 1.3 cm	2				
	外科鉗子 無鉤 1.3 cm	2				
	メスホルダー No. 3	2				
	替刃メス No. 15 20枚入	1				
	替刃メス No. 11 20枚入	1				
	外科ゾンデ 1.8 cm	1				
	メスシリンダー 100 ml	2				
	八光エラストー針 EV-19 19G	50				
	アトム翼付チューブ針 23G	50				
	輸液セット	100				
	ポリ手袋	500				
	15	ディスポ注射器 針付 2.5 cc	100			
		" 5 cc	100			

C/Nos.	Description of Goods	Quantity	Weight		Measure- ment
			net	gross	
19	デイスボ注射器 針付 10cc	100			
	" 20cc	50			
	デイスボ注射針 21G×1 $\frac{1}{2}$	100			
	" 23G×1 $\frac{1}{4}$	100			
	滅菌ガーゼ 30×35cm	400			
	脱指綿 未滅菌 500g	1			
	伸縮包帯 5.4cm×9m Nタイプ	10			
	" 9cm×9m "	10			
	タオル	10			
	紙コップ	500			
	軽便カミソリ	20			
	網包帯ニュースネット №2, 3, 6	1組			
	石田 自動上皿天秤 1型 100g	1			
	病院用絆創膏 12mm×5m 5本入	5			
リンスキんL	20				
20	バンドエイドL 2081 打入	5			
	" M スタンダード 2打入	5			
	" S 200ヶ 2打入	5			

第 1 次 チーム 生活 資 機 材

C/Nos. (段ボール)	Description of Goods	Quantity	Weight		Measure- ment
			net	gross	
A-1	白 衣 男性用 長そで LL寸	10			
	" " " L寸	10			
	" " " M寸	10			
	" " " S寸	10			
	" 女性用 " L寸	10			
	" " " M寸	10			
	" " " S寸	10			
	脱脂綿 500g	6			
A-2	脱脂綿 500g	24			
A-3	プラスチックスプーン	5,000			
	ビニール袋	70			
	紙コップ 90cc	3,000			
	綿 棒	1			

第 2 次 チーム 医 薬 品

資料 3

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
C/NoC-100	ビクシリン	250/500cap	6 Boxes	
	ビクシリンドライシロップ	1g×500	4 Boxes	
	アクロマイシンV	100 Caps	30 Boxes	
	アリナミンF	1000 Caps	2 Boxes	
	ハチビタン	1g×1000	1 Pack	
	アスピリン	30 Tabs	167 Boxes	
	フラジール	100 Tabs	10 Boxes	
	コンバントリン	1g×200	5 Boxes	
	テラマイシン眼軟膏	3.5 g	50 Boxes	
	オイラックス軟膏	500 g	2 Boxes	
	アクリノール	500 g	2 Bottles	
	パンビタン	200 Tabs	10 Bottles	
	コンバントリン	500 Tabs	1 Box	
	ミノマテシンドライシロップ	20mg/100 g	5 Boxes	
	ペニシリンG 1,000,000 Units	1g×10 Vials	5 Boxes	
	蒸留水	10 ml	50 Amps	
	スミスリン		15 Boxes	
	リペラン	100 ml	15	
	イソジン	250 ml	1 Bottle	
	ヒビテン	500 ml	1 Bottle	
	オキシドール	500 ml	1 Bottle	
	ロベミン	100 Cap	1 Box	
	新三共胃腸薬	500 Tabs	1 Bottle	
	ミノシン	500 ml	1400 Tabs	
	コリマイC	5 ml	60	
	小児用バファリン	1000 Tabs	2 Boxes	
	アンヒバ坐薬	100mg 100入	2 Boxes	
	ワコビタール	30mg 100入	1 Box	
	ワコビタール	50mg 100入	1 Box	

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
	クレゾール	500 ml	5 Bottles	
	ピューレックス	600 ml	1 Bottle	
	エタノール	500 ml	1 Bottle	
	セルシン	2 mg	200 Tabs	
	バクシダール	200 mg 100 Tabs	2 Boxes	
	エリスロマイシン	200 mg 100 Tabs	10 Boxes	
	エリスロマイシンドライシロップ	200 mg 500 g	1 Box	
	カナマイシン	250 mg 100 Tabs	3 Boxes	
	トローチ	24 Tabs	9 Boxes	
	ベンザ		200 Tabs	
	離乳食	15.5 g Pack	48 Packs	
	離乳食	16 g Pack	48 Packs	
	粉ミルク	1150 g	8	
	キンロカイン	20mlv	10 Bottles	
	ヒビテングルコネート	500ml	10 Bottles	
	イソジンガーグル	30ml	50 本	
	リンスキンL	40 Papers	5 Boxes	
	インダシン坐剤	25 mg 50 入	10 Boxes	
C/Na C-101	ORS	27.5 g	2,000 包	

第 2 次 チ ー ム 医 療 機 材

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount	
A-100	スター舌圧子 (200入)	3			
	イヤーフrend(ディスポ棒綿子 200入)	1			
	三天輸液セット 小児用	100			
	八光エラストー針 19G	50			
	栄養カテーテル #3	10			
	" #4	10			
	" #5	10			
	" #6	10			
	" #7	10			
	" #8	10			
	テルモ ディスポ注射器 針付 2.5 ml	(100入) 1			
	" 5 ml	(100入) 1			
	" 10 ml	(100入) 1			
	" 針なし 20 ml	(50入) 1			
	テルモ ディスポ注射針 21G×1 $\frac{1}{2}$	(100入) 1			
	" " 23G×1 $\frac{1}{4}$	(100入) 1			
	三興 ポリ手袋	500			
	ステラーゼ 7.5×7.5	1,000			
	A-101	アトム翼付チューブ針 21G 50入	2		
		" 23G "	2		
" 25G "		2			
" 27G "		2			
アトム静脈カテーテル 5Fr		3			
" 8Fr		3			
" 翼付チューブ針 25G 50入		40			
A-102	メドックスカテーテルランプ 8840	10			
	テルモ電子体温計 FT-C20S	5			
	タ オ ル	20			
	紙コップ(90cc)	3,000			

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
A-104	トレー 大 27×21×4 cm	1		
	" 中 24×18×4 cm	1		
	" 小 21×15×4 cm	1		
	フタ付バット 27×21×4 cm	1		
	予防着 M	4		
	キャップ M	4		

第 2 次 チ ー ム 生 活 用 資 機 材

Nos.	Description of Goods	Quantity	Unit Price	Amount
B-101	自 転 車	1		
B-102	輪ゴム	1箱		
	パスケース (プラスチックケース) B 5	20枚		
	" " A 4	10枚		
	クリアホルダー	50 "		
	バインダー コクヨ ヨハーク A 4	10 "		
	" " " B 4	10 "		
	穴あけ器	1		
	せんまいどおし	2		
	たこ糸	1巻		
	クローズアップマーカー 4色各3	12本		
	NTカッター 大	2		
	" 小	2		
	平定規 30cm	3		
	ビニールテープ 赤, 白, 青各3	9		
	のり	3		
	はさみ	3		
	鉛筆 HB	1打		
	浄水器(真清水) 替フィルター	20ヶ		
	カルテ	2,000枚		
	トリアージュ タグ	15束		

第 3 次 チーム 医 薬 品

資料 4

C/Nos.	Description of Goods	Quantity	Weight		Measure- ment
			net	gross	
C-200	ORS (経口補水塩)	1,500			
201	" "	1,500			
202	" "	1,500			
203	" "	1,700			
204	" "	1,800			
205	バクシダール	500T			
	ビオフェルミン	1,000T			
	エビオス	1,000T			
	複合トローチ SP	1,200T			
	6%ピューラックス 600 ml	1			
	リップクリーム	15コ			
	正露丸糖衣錠	70T×5			
	ヨードチンキ 100 ml	5			
	リンスキンL 40包	20コ			
	スプレーゼ 50 V	2箱			
	新三共胃腸薬	1,000T			
	消化酵素剤(エクセラゼ)	1,200T			
	トラベルミン	120T			
	かぜぐすり(パブロン)	90T			
	クレゾール 500 ml	2本			

第3次チーム医療及び生活用資機材

C/Nos.	Description of Goods	Quantity	Weight		Measure- ment
			net	gross	
A-200	1. テルモ電子体温計 ET-C20S	5			
	2. ディスポ防塵マスク(活性炭入)	100			
	3. ナース手術用帽子 白	10			
	4. クラメル副木 8×80	5			
	" 6×60	5			
	" 4×40	5			
B-200	5. 3Mリットマンスコープ小児用2112	2			
	6. JMSイグザミネーショングローブ S. M. L 100枚/箱	各1箱			
	ボールペン 赤黒2色付	5ダース			
	色えんぴつ 赤青	2 "			
	作業用トレパンM(男女)	各6枚			
	靴	8足			
	タイプライター	1			

3) マカレ周辺被災民シェルターにおける飲料水

第3次チーム 奥村悦之

はじめに

水資源は人間の生命維持に必須であると同時に病原微生物の汚染源ともなり水系伝染病等を惹起する。とりわけ飢餓被災民の集まる地域にあってはそのおかれた地域特異性が故に尚更である。従って今回チグレ州マカレ市周辺被災民の実際に使用している生活水を選んで水質検査を行ない、興味ある成績を得たので報告する。

対象と方法

調査期間は第3次チーム業務期間の1月21日より3月3日迄のうち、無作意に日を選び、主としてJMTDRの勤務するNo.1 ShelterのAdi-Hirusシェルターを、更に他の外国医療チーム援助のQuihaシェルター(伊)、TenbenNo.2シェルター(伊)Waerebシェルター(ICRC)、Maydubaシェルター(西独)内の被災民共同上水道、そしてJMTDRの宿泊したAbraha Castleホテルで使用の上水道を対象とした。採水は水道の蛇口を開き、約3分後の水を採取し、NO₂-N、NO₃-N、大腸菌群、一般細菌数PH、Clイオン、KMnO消費量、硬度の項目について分析した。尚大腸菌群、一般細菌数は、Millipore, Water MC25及びMT 25を用い、採取水をサンプラーに浸し、35℃24時間後の集落を算定した。

成 績

JMTDRの援助するAdi-Hirus No.1 シェルター内事務局テント横の水道水は表1に示すごとくいずれの日にもNO₂-N、NH₃-Nが定性分析で検出された。又一般細菌数、大腸菌群もほとんど検査する度に許容範囲を越える値を示した(表1、図1、2、3)

JMTDR及びICRC、イタリアチームらが宿舎としているAbraha Castleホテル内の水道水も赤、NO₂-N陽性が1月28日、2月11、17、18日に認められた。又2月11日採取水に大腸菌群、一般細菌が高値を示した。

他国援助チームのシェルター内被災民テント村の中に存る共同上水道の水質検査成績を表3に示す。同時に検出されたNO₂-N NH₃-Nは伊国の援助するQuihaシェルターとJMTDRのAdi-Hirusシェルターに認められた。又特異的なことは一般細菌数、大腸菌群が高値を示し、更に全般に硬度が高いことであった(表3、図4)

考 察

本調査において極めて特徴的なことは、ほとんどの地域の水道水に一般細菌数、大腸菌が

検出され基準値をはるかに越えていること、同時に検出されてはならないNO₂-N NH₃-N検出地域が散見されること、ならびに全般的に硬度が高いことである。一般細菌および大腸菌は10²以下を(-)としたが、この細菌検査は無菌操作が不十分なため正確な値とは云えないかも知れない。しかしながらこの異常値とも云い得る結果は、病棟汚染の指標となることは容易に推察される成績である。

又NO₂-N NH₃-Nが同時に検出された事実も亦、汚染され、環元環境にある水であることを示して、やはり病源汚染の指標となる。

硬度は元来300 ppm以下とされているが、各シェルター共、やはり異常に高い。水の軟硬は工業用水には鉄と共に特に重視されるばかりでなく、日常生活での洗濯や料理に支障をきたし、生体内における物質代謝障害の因子となる可能性がある。従ってこの様に異常に高いと身体へ障害をおこし得るであろう。Mg⁺⁺やCa⁺⁺は当然硬度の値に関係してくるわけであるから、これらの水道水の飲用は病原微生物が例え皆無であったとしても下痢症状を来す可能性を示唆している。

これらの被災民テント村における飲料水の取水方法は、我々の調査によると50m~70m掘った所の地下水を利用している完易水道とのことであった。河川水と異なり大気と遮断されているから、例えば地中での有機物の分解により水中の酸素ガスが消費されても補給されないし、水や人間の排泄物、排水が容易に移行し、即ち自然および人為の局地的条件の影響を大きく受け、容易に汚染する。しかも掘った水脈が浅い程、人類活動による汚染がすすむわけであるから、以上の分析結果から被災民の疾病罹患構造の多様性との関連づけは容易に推察しうるのである。実際の所、別紙の疾病罹患調査報告に示した如く、細菌性赤痢、腸チフス等の感染症の存在は、被災民の飲料水の食生活とは無関係でないことを示唆しているであろう。

表 1. Adi- Hirus Shelter 内、水道水

月/日	NO ₂ -N	NH ₃ -N	E. Coli	Total. Bac
1/28	++	+	4.0 × 10 ⁴	3.5 × 10 ⁴
2/5	+	+	NT	NT
2/11	+	+	-	4.0 × 10 ⁴
2/13	++	+	NT	NT

(NT; not + tested 許容範囲; E. Coli 50ml中に検出されないこと
Tot Bact. 100² 以内/ml, NO₂-N, NH₃-N 検出されないこと)

表2 Abraha Castle Hotel (宿舎) の水道水

月/日	NO ₂ -N	NH ₃ -N	E. Coli	Total Bact.
1/28	++	-	NT	NT
2/11	+	-	2.0 × 10 ⁴	4.5 × 10 ³
2/17	+	-	NT	NT
2/18	+	+	NT	NT
2/22	-	-	NT	NT
2/23	-	-	NT	NT

表3. 他国援助チームの Shelter 内上水道

シェルター名	PH	NO ₂ -N	NH ₃ -N	Cl	KMnO ₄	COD	硬 度	E. Coli	Tot. Bact.
Quiha(伊)	7.2	0.1	0.5	57.0	3.2	0.8	1080	323 × 10 ⁴	78 × 10 ⁴
Tenben No2	7.4	1.0	0	24.5	5.1	1.3	1280	52 × 10 ⁴	193 × 10 ⁴
Waercb(ICRC)	7.4	0	0	39.0	9.5	2.4	400	無 数	15 × 10 ⁴
Mayduba(西独)	7.4	0	0	4.0	3.8	1.0	820	1.6 × 10 ⁴	1.4 × 10 ⁴
Adi-Hirus (日本)	7.2	1.0	0.5	42.5	4.7	1.5	610	1.5 × 10 ⁴	2.0 × 10 ⁴

(単位mg, いずれも2月24日採水, NO₂-N NH₃-Nについては定量分析3月5日測定)



図1 $\text{NO}_2\text{-N}$, $\text{NH}_3\text{-N}$,
同時検出

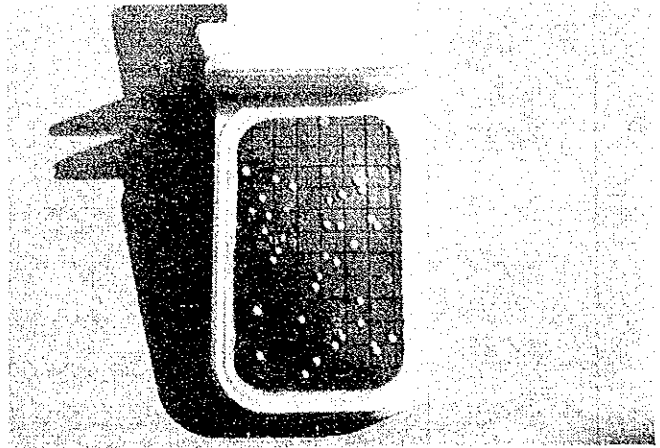


図2 一般細菌コロニー

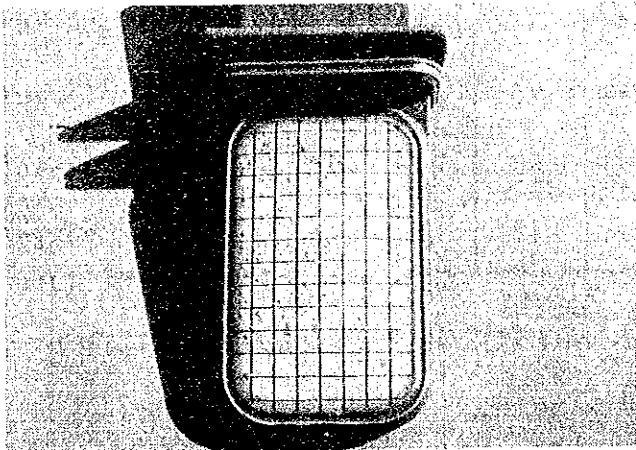


図3 大腸菌コロニー



図4 Quiha シェルター内テント村の
共同上水道

4) アファール族とティグレ族

〔いつも回診時ピーピー泣いてなにか訴えているが、アファールなので何を言っているのか分らなかった。それで、通訳を連れてきて聞いてもらったところ、なんと3日間誰れも食べ物を与えないのでお腹が空いてたまらないと言っているとのこと。〕アファール族と最初に接し困惑した第1次チームの記述である。

続いて〔シェルターNo.2はアファール族を集めている。彼等は遊牧民であり、食生活をはじめとする生活風習が異なるためエチオピア側も困っている。患者によっては他の部族や宗教の者からは口にするものはもらわないという頑固な人もいる。〕という報が第2次チームから寄せられている。

第3次チームは〔Mr. Kidar. という通訳がイタリア、メディカルチームにスカウトされ、アファール族の理解できる通訳が不足した。〕という問題に面し、〔2月25日シェルターNo.1をティグレ族用、No.2をアファール族用とし、生活習慣や宗教のちがいがから起こるトラブルを防ぐためひとつのシェルターにはひとつの部族を収容することになった。〕と報じてきている。

彼等は第3次チームの調査によりダナキル砂漠のダルールという100キロほど先の海拔下の地域から、1カ月も2カ月も費してたどりついた避難民であることが判明したが、第4次チームはティグレ族とアファール族とにさらにこまかく出身地の生活調査のアンケートを行なっている。

アンケートによるとティグレ族はキリスト教徒、アファール族は80パーセントがイスラム教徒という基本的違いがあるが、暮しぶりの内容はほとんど同じであり、この地域一帯を襲った旱魃のため〔村にはなにも食べ物がなくなり、ここへ来たらなにかあるだろうと思った。しかし、雨が降ったら帰りたい。〕という窮状を訴えていることを明かにした。

では、JMTDRが最初にコンタクトした人達はどのような歴史を持ち、どのような社会的位置にあるのだろうか。エチオピア人といつてもいろいろの部族があり、彼等はそれぞれその信じる宗教から、人口、地域分布、言葉、成り立ち、文化の諸相を持ち、同じエチオピア人としてもずいぶんとバラエティに富んでいる。JMTDRは現地活動の一環として、文化的側面への配慮を心がけているが、そのような観点からでもJMTDRが救援した人達についてアウトラインだけでも把握しておく意味はあるように思われた。資料的には多少古く、現今の社会体制下の実情は不明であるが、以下は別掲の資料でまとめたティグレ族とアファール族との肖像である。

エチオピアには総人口3千5百万人の4分の1近く占めるアムハラ族がおり、ガラ族とかシダモ族はその次に位し、ティグレ族とかアファール族は少数部族に属する。ティグレ族は人口30万、アファール族は20万で、地位関係では両部族の分布が重なり合うダナキル北部地方では後者は前者に従属すると云われていた。

エチオピア人は遠い昔、ネグロイド系とヨーロッパ系の混血によって生じ、エチオピアという

言葉を古代ギリシャ人は「日に焼けた人」という意味で使っていたと言われている。

エチオピアはさらに、紀元前10世紀頃、アクスム王朝として創設され、シバの女王とエルサレムのソロモンの子メネリック一世とを始祖とする伝説を伴うが、アクスム王朝はアラビア文明を担っていたことは明かであり、ティグレ族を含むアムハラ族はこのアクスム人を指していた。

次に、紀元6世紀頃、アクスム王朝の崩壊によって両族の分離が行われるが、北エチオピアに留まったアクスム人がティグレ族であり、南下したアクスム人はアムハラ族を形成した。したがって、それぞれティグレ語とアムハラ語を除くと両族の類似点は多く、体付き、顔立ち、皮膚の色などに差違はなく、そのモデルとしてはマラソン・ランナーのアベベ・ビキラを思い起こせばよい。

とくに、歴史的にも社会的にも両族に共通し、両族を規制してきたコプト派キリスト教の渡来について触れてみたい。

エチオピアはもともと紅海をはさんでアラビアとの交流があり、前記アクスム王朝はアラビアの古代宗教を信じていた。それが4世紀頃、キリスト教に改宗したのは地中海文化との接触によるものである。そして教義はキリストの単性説（キリストの神性と人性を単一とみる説）をとり、コプト教信者として今日に至っている。彼等にどんな宗教を信じているかと聞くと、彼等は「オールドクサ」と答える。つまり彼等は Ethiopian Orthodox Church の信者であり、上述のギリシャ正教のアレクサンドリア総主教区との結びつきのあったことを物語っている。

彼等はセム系のティグレニア語を使い、ウマ、ヤギ、ヒツジを飼う遊牧民である。住居はハチの巣形の小屋で小集落を成すが、キリスト教を信じる彼等はひとりひとりの妻の風習に従っている。

他方、現在はジブチ共和国と名称されているが、1977年独立時まではアフール・イッサと呼ばれてアフールという言葉はアフリカの角の根元にある小さな国の名称としてわれわれには知られていた。そして、今回、この部族について調べてみると、ジブチに住むアフール族は20万人のうち2万に過ぎず、大多数はチグレ州の東にひろがるダナキル地域に散在し、別名ダナキル族とも呼ばれていることが分った。

ダナキル地域は一部はアフリカ大地溝帯をなす陥没地で、海拔下120メートルの砂と塩と炎熱の世界であると描写されている。イギリスとイタリア人が初踏破したのは1928年という記録があるから、ここはまだ探険的興味をそそる未開地なのかもしれない。しかし、第4次チームの生活調査で明かなように彼等は農耕と牧畜に従事しており、そこには緑の大地が部分的にはひろがっていたことの想像はできる。

アフール族はハム系のクシティック語とも言われる言語を用い、イスラム教を信じている。イスラム教は8世紀頃アラビアからの移住に伴って伝わり、以後キリスト教と勢力を二分してき

た。エチオピアの古代から近世にまたがる1000年間の歴史はキリスト教とイスラム教の対立抗争により形成されているといっても過言ではない。

アファール族はまた略奪結婚の形式や戦士の功績を婿たる者の資格とする遺風を残していた。それは厳しい自然に生きる者に必要なサバイバルの資質を物語るが、アファール族を描写した文章には「生きんがためには砂漠の荒地も徹底的にあさりまわる」術に長け、「よそから来た旅人は水の蜃気楼にだまされるが、アファール族は人間の謀略にも自然の詐術にも警戒を怠らず、きびしいまでに現実的」な眼力と知力を装えていると記述されている。

アファール族は餓死寸前でマカレのシェルターにたどりついては、しかし、厳しい自然に生きる者の胆力は失っておらず、すこしも取り乱すことはないようだった。それはまた、ティグレ族についても言えることで、彼等は飢餓に落ち入ってもほとんど従容としていたのは、シバの女王とソロモン王の末裔として、また厚いコプト教信者として自衿に支えられているからに思えた。生と死が隣り合ったマカレのシェルターの医療活動の真中において感じられたのは、彼等のなにか物静かな人間的存在ではなかっただろうか。

(参考資料)

- ETHIOPIA The Handbook for Ethiopia
University Press of Africa 1969年
- 朝日講座 探険と冒険1 朝日新聞社 1972年
- ミリオーネ全世界事典10 アフリカ1 学習研究社 昭55年
- 世界の民族2 熱帯アフリカ 平凡社 1978年
- 世界地理風俗大系14 アフリカⅡ 誠文堂新光社 昭39年
- アフリカ現代史Ⅱ 東アフリカ 山川出版社 昭53年
- 鈴木秀夫著 高地民族の国 エチオピア 古今書院 1969年
- Ethiopia Mountain Kingdom Jane W. Watson 1968年

5) ティグレ州とマカレ市

ティグレ州 ポスボラス海峡から紅海を経由しアフリカ大陸を南下するアフリカ大地溝帯がティグレ州を通っている。海拔は州都マカレで2,000メートル、年平均の気温は22℃あるが、しかし、ウォイナデガといわれる亜熱帯に属しながら雨量は月平均22ミリと少ない。

このアビシニア高原の一画も、かつては遊牧民の生活を支えるに足る緑に覆われていた。古い何葉かの写真をみると、ジャイアント・カクタスの生える荒地もあるが、大地には下草が生え、山陵には樹木が連なっていた。そして、遊牧民がコブのあるセブ牛を追っている姿には飢餓の影はどこにも追っていない。エチオピアの国土がまだ40パーセントの樹木に覆われていた頃の風景であろう。

しかし、アビシニア高原の荒廃ぶりはいまや目を覆うばかりである。首都アジス・アベバから飛行機で北上すると一目瞭然である。くろぐろとした森林地帯を残すのは首都近辺のみであり、ウオロ州辺からは大地は土色一色となる。地球の割れ目である前述の大地溝帯はあちこちに湖面を作り、その青さはひときわである。しかし、湖岸にも緑のひろがりはない。プロペラ機はやがてゆるやかに起伏する山腹すれすれに高度を下げて行く。辺りは矮小のトゲの枯木しかない土漠である。雨らしい雨はもう5年間も降っていないと言う。

雨が降らなくなった原因は、砂漠化による乾燥が背景にあるといわれている。そして、その砂漠化は緑の減少したせいであり、人間のたぎぎ取りと過放牧も元凶になっているといわれてる。つまり、雨が降らなくなったのは人間の営為が資源の量とのアンバランスを生み、自然の攝理を狂わせたという論理となるが、1968年に書かれた文章はこの間の事情を単的に伝えている。

Ethiopia has had more forests. For many hundred of years trees have been cut for fire wood and for building and to clear farm land. In most of the country, no one has bothered to plant any trees. This is unfortunately true of many lands where people have lived and formed for a long time. When trees have all been cut the rains carry away more soil.

Ethiopia Mountain Kingdom

1968 by Jane Werner Watson

マカレ市 州都マカレは首都と紅海の港アスマラを結ぶハイウェイ上にあり、19世紀末にはイタリア軍との間に争奪が繰り返された地理的要点にある。また同じ頃、皇帝ヨハネ四世により首都に選ばれている。JMTDRチームが宿泊したCastle Abraha Hotelはかつての皇帝時代の館である。

マカレの人口は1974年で78,500人、産業、商業面ではダナキル砂漠産出の岩塩の集落

地であり、他に綿花、皮革、密臘、香料などの生産、流通を担っている。

ティグレ州の諸データ

面積 65,900 平方キロ

人口(1970年) 1,748,000人

人口密度 26.5 Per km²(全国平均20.0)

州の財政(1970年)

収入 437,300 E. \$ (1985年の換算率 100U.S.\$=2.07Birr)

支出 340,000 E. \$

州の医療施設(1969年)

病院 5 (全国 80)

診療所 22 (" 548)

ベッド数 322 (" 8,103)

ヘルスセンター 7 (" 70)

州の医療要員(1969年)

医師 6 (全国 319)

歯科医 0 (" 14)

薬剤師 0 (" 53)

看護婦 27 (" 662)

州の小学生、中学生(1961年)

官立 21,660 (全国 459,636)

ミッション系 2,169 (" 56,930)

私立 — (" 67,093)

教会 3,686 (" 19,184)

計 27,515 (" 602,843)

6) 各種統計

第3次チーム 萩原雅巳

表-1 チグレ州各シェルターの年令及び性別人口 (表)

図-1 チグレ州各シェルターのテント及び被災民数 (グラフ)

表-2 ADI-HIRUS (No.1) シェルター年令, 性別人口 (表)

図-2 同 上 (グラフ)

表-3 ADI-HIRU シェルター男女別死亡者数 (表)

図-3 同 上 (グラフ)

表-4 JMTDR病院入院患者 (表)

図-4 同 上 (グラフ)

表-5 JMTDR病院入退院, 外来及び死亡者数 (表)

図-5 同 上 (グラフ)

表-1

チグレ州各シェルターの年齢及び性別人口

1985年2月

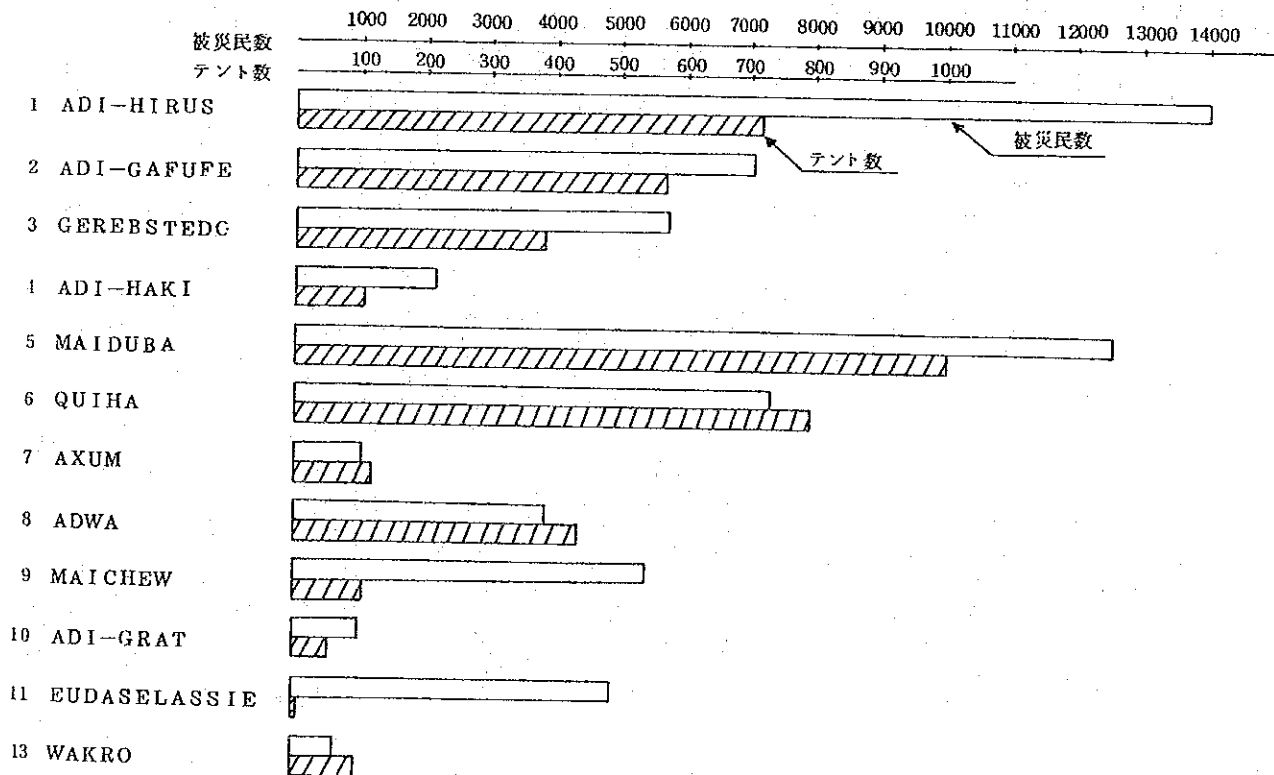
アドミニストレーションオフィス調査

シェルター名	テント数	0~5才		6~15才		16~		TOTAL		GRAND TOTAL	1テント当りの数
		男	女	男	女	男	女	男	女		
1 ADI-HIRUSE	716	1419	2,255	1,890	2,316	2,468	3,600	5,777	1,871	13,948	19.5
2 ADI-GAFFE	563	1,009	1,005	1,205	1,241	1,246	1,303	3,460	3,549	7,009	12.4
3 GEREBSTEDO	385	652	555	832	802	1,373	1,489	2,857	2,846	5,703	14.8
4 ADI-HAKI	104	209	207	340	423	275	714	824	1,344	2,168	10.1
5 MAIDUBA	989	1,152	1,315	2,060	2,180	2,051	3,830	5,263	7,325	12,588	12.7
6 QUIHA	790	241	198	1,099	1,047	2,003	2,725	3,343	3,970	7,313	9.3
7 AXUM	118	169	162	200	207	13	276	382	645	1,027	9.7
8 ADWA	436	509	783	639	907	464	576	1,612	2,266	3,878	8.9
9 MAICHEW	102	601	724	846	810	665	1,777	2,112	3,311	5,423	53.2
10 ADI-GRAT	52	36	68	107	63	331	383	474	514	988	19.0
11 EUDASELASSIE	4	449	506	577	558	1,363	1,447	2,389	2,511	4,900	122.5
12 MAGERESELAM	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13 WAKRO	92	30	30	125	102	112	219	267	351	618	—
TOTAL	4,351	6,476	7,808	9,920	10,656	12,364	18,339	28,760	36,803	65,563	15.1

年齢別合計	14,284	20,576	30,703	(平均)
年齢別男性割合	45%	48%	40%	(平均) 44%
年齢別人口割合	22%	31%	47%	100%

図-1

チグレ州各シェルターのテント及び被災民数



表一 2

ADI-HIRUS (NO1) シェルター年令、性別、人口、1985年3月

ブ ロ ッ ク	テ ン ト 数 (注1)	家 族 数 (注2)	世帯主		年 令 別 人 口								合 計 人 数		
			男	女	0~6才		7~15才		16~45才		45才以上		男	女	計
					男	女	男	女	男	女	男	女			
1	63(13.3)	248(3.4)	116	132	70	85	80	160	159	178	40	67	349	490	839
2	72(11.5)	300(2.8)	92	208	100	120	93	200	84	90	47	91	324	501	825
3	40(12.7)	108(4.7)	58	50	55	46	85	89	44	84	48	58	232	277	509
4	71(15.8)	274(4.1)	99	175	110	200	150	170	99	206	90	100	449	676	1,125
5	72(18.5)	275(4.8)	87	188	86	232	130	227	115	214	84	243	415	916	1,331
6	48(17.7)	201(4.2)	93	108	139	160	105	95	61	118	76	97	381	470	851
7	80(13.6)	315(3.5)	111	204	157	123	102	165	87	216	93	144	439	648	1,087
8	171(11.0)	662(2.8)	316	346	295	235	365	262	231	230	120	141	1,011	868	1,879
9	85(12.8)	311(3.5)	143	168	123	170	145	125	87	214	109	116	464	625	1,089
10	9(133.1)	257(4.7)	130	127	210	250	218	232	84	112	45	47	557	641	1,198
計	711(13.6)	2,951(3.6)	1,245	1,706	1,345	1,621	1,473	1,725	1,051	1,662	752	1,104	4,621	6,112	10,733
(注3)			年令別合計		2,960		3,198		2,713		1,856				
			年令別男性割合		45%		46%		39%		41%		平均43%		
			年令別人口割合		28%		30%		25%		17%		100%		

注1. ()内は1テント当りの平均収容人数 注2. ()内は1家族当りの平均人数
 注3. ()内はブロック毎10(大型テント)以外の小型テントのみの平均収容人数

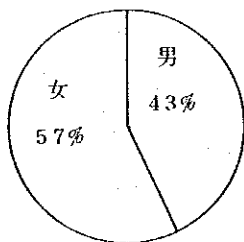
この人口表は、アドミニストレーションオフィスが、被災民登録者カードを基に調査したものである。年令別男性割合、人口割合、家族構成人数等は、データを基に計算し、つけ加えた。又以下はそれらをグラフにしたものである。

図一 2

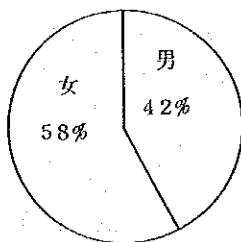
ADI-HIRUS シェルター年令、性別人口

シェルター内被災民総数 10,733人 テント数 711
 1テント当り平均収容人数 13.6人 1家族当りの人数 3.6人

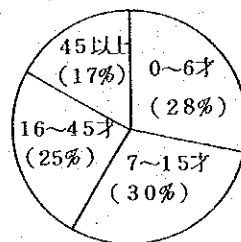
男女割合



世帯主男女割合

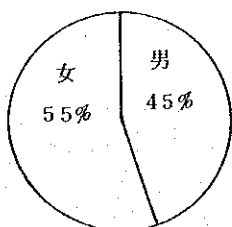


年令別人口割合

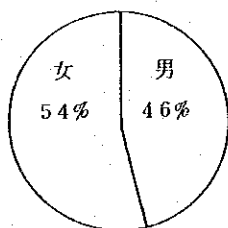


年令別男女割合

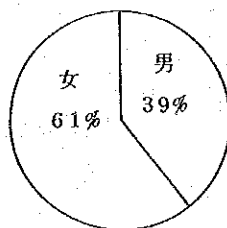
0~6才



7~15才



16才~45才



45才以上

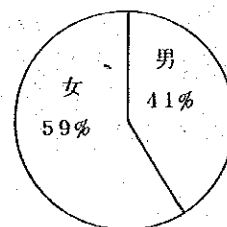


表-3

ADI-HIRUS (NO1) SHELTER男女別死亡者数

この統計はアドミニストレーション、オフィスがシェルター 1984. 12. 10~1985. 3. 26 計 107日
 内の男女別死亡者数を調べたものであり、政府機関等に報告す 合計死者数 2,028人
 る数字でもある。又、10日間ごとの一日平均死者数を付け加え 一日平均 18.95人
 た。

1984 12月 一日平均 (380人)				1985 1月 (284人)				2月 (84人)				3月 (29人)			
日	男	女	計	日	男	女	計	日	男	女	計	日	男	女	計
1				1	24	19	43	1	6	11	17	1	2	2	4
2				2	23	47	70	2	2	12	14	2	0	2	2
3				3	24	16	40	3	4	7	11	3	2	5	7
4				4	28	18	46	4	4	8	12	4	9	3	12
5				5	24	33	57	5	5	8	13	5	2	3	5
6				6	22	20	42	6	6	7	13	6	3	0	3
7				7	13	12	25	7	0	4	4	7	2	4	6
8				8	18	22	40	8	2	1	3	8	0	3	3
9				9	24	21	45	9	5	10	15	9	1	1	2
10	5	9	14	10	16	20	36	10	2	6	8	10	3	3	6
11	11	14	25	11	14	11	25	11	2	8	10	11	1	1	2
12	14	15	29	12	11	9	20	12	7	6	13	12	0	5	5
13	16	12	28	13	15	10	25	13	1	4	5	13	2	1	3
14	9	15	24	14	13	13	26	14	3	5	8	14	0	0	0
15	13	16	29	15	17	18	35	15	3	3	6	15	1	2	3
16	15	25	40	16	7	16	23	16	3	6	9	16	0	1	1
17	34	21	55	17	14	16	30	17	5	7	12	17	0	2	2
18	25	19	44	18	7	11	18	18	5	3	8	18	0	1	1
19	16	23	39	19	11	7	18	19	3	5	8	19	0	1	1
20	21	16	37	20	7	5	12	20	4	5	9	20	1	2	3
21	17	16	33	21	15	8	23	21	3	5	8	21	0	0	0
22	24	16	40	22	10	7	17	22	1	3	4	22	0	0	0
23	17	17	34	23	6	7	13	23	2	2	4	23	0	0	0
24	27	20	47	24	13	13	26	24	2	2	4	24	0	0	0
25	26	24	50	25	8	17	25	25	1	3	4	25	1	2	3
26	30	16	46	26	8	10	18	26	4	1	5	26	1	1	2
27	28	20	48	27	5	15	20	27	2	1	3	27			
28	27	12	39	28	9	5	14	28	1	3	4	28			
29	28	23	51	29	8	5	13	29				29			
30	18	10	28	30	9	11	20	30				30			
31	29	28	57	31	10	6	16	31				31			
計	450	387	837	計	433	448	881	計	88	146	234	計	31	45	76

图-3

ADI-HIRUS (NOI) SHELTER男女別死者数
1984年12月10日~1985年3月26日

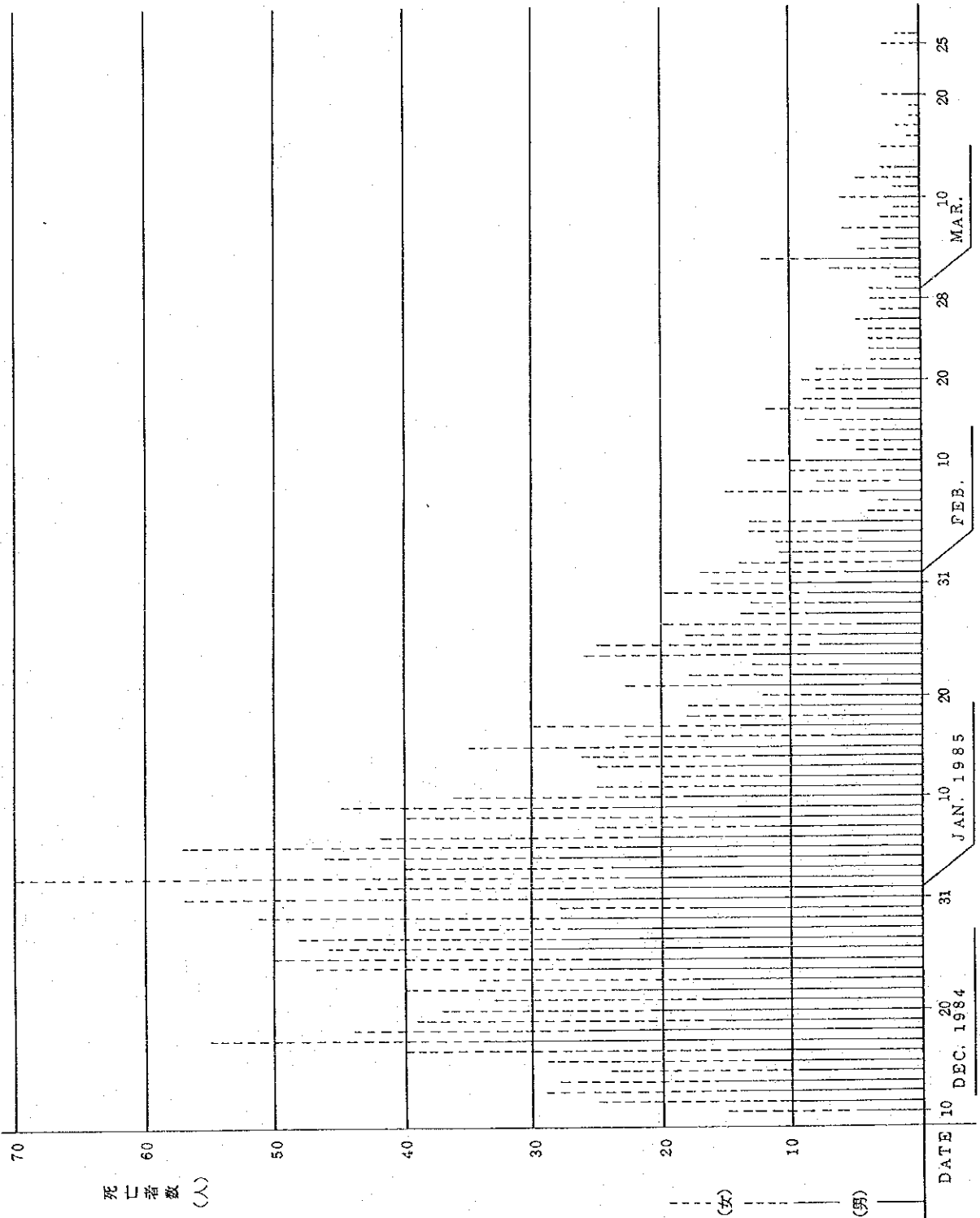


表-4

J M T D R 病院入院患者

男女・年齢別入院及び死亡患者数

下表は、J M T D R 病院に入院した患者について調べたものであるが、カルテの紛失、又エチオピア医師が担当した患者のカルテの回収ができなかったものがあるため、合計人数は別表の数字より少なくなっている。

単位：人数

期 間 性別、年齢別		12/17~12/22	12/23~ 1/23	1/24~ 2/23	2/24~ 3/23	合 計
0~4才	男	—	41(5)	23(1)	4(0)	68(6)
	女	—	23(3)	24(2)	15(2)	62(7)
	計	71(7)	64(8)	47(3)	19(2)	201(20)
5~14才	男	—	39(1)	34(4)	25(0)	98(5)
	女	—	47(9)	40(1)	23(1)	110(11)
	計	91(10)	86(10)	74(5)	48(1)	299(26)
15才以上	男	—	59(10)	61(10)	40(2)	160(22)
	女	—	105(11)	169(20)	91(7)	365(38)
	計	164(16)	164(21)	230(30)	111(9)	689(76)
合 計		326(33)	314(39)	351(38)	198(12)	1,189(122)

注1. ()内は死亡者数

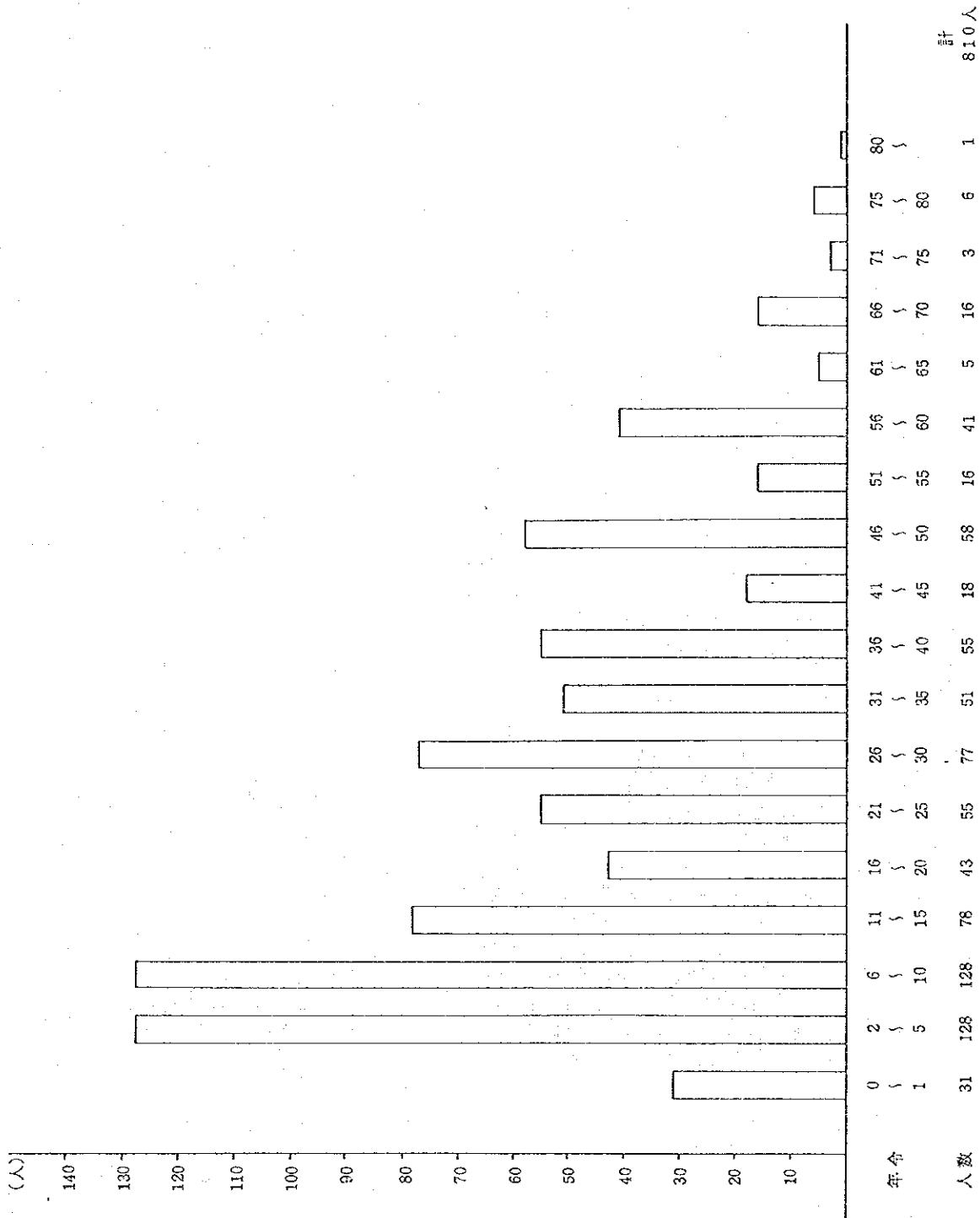
注2. 12/17~12/22の男女別は不明

注3. 12/17~12/22の15才以上に年齢不明者数を含む。

年齢不明数5人内死亡者数1人

図-4

JMDDR HOSPITAL 年令別入院患者数
1984.12月17日～1985.3月23日



この統計は、毎日4:00PMカルテを基に調査したものであるが、行方不明患者やカルテの紛失等があり、各項目間の数字が合わない日がある。
 なお、病棟5は Intensive Rehydration Unit になっており、主にエチオピア医師が担当した。6は各病棟の患者数を減らし、接触感染を防ぐため2月23日にOPENした。7は、妊産婦室であるが2月1日～13日の間は肝炎患者の隔離病棟に使用した。又6、3、4、6は第4次婦園のため3月中旬Closeした。

INTENSIVE REHYDRATION UNIT

1984. 12月

←1985. 2月23日OPEN

日	外来	病棟							計	新入院	退院	行方不明	死亡
		1	2	3	4	5	6	7					
17	75	14	19	32	0				65	8	4		5
18	140	17	20	37	0				74	14	3		2
19	260	20	25	38	2				85	19	7		1
20		18	19	38	14				89	14	8		2
21	219	16	17	40	27				100	26	12		3
22	244	17	21	24	42				104	12	6		2
23	214	18	16	37	27				98	5	10		1
24									90	12	2		0
25	132								97	6	14		2
26	233	16	15	32	44				107	4	9		2
27	214	12	12	41	27				92	4	6		3
28	165	13	17	38	29				97	12	5		5
29	168	12	19	36	21				89	3	6		0
30	120	12	20	35	27	2			96	0	3		4
31	91	9	18	34	30	5			96	6	2		2
合計	2275								1,379	145	97		34
1日(平均)	(152)								(92)	(97)	(6.5)		(2.3)

日	外来	病棟							計	新入院	退院	行方不明	死亡
		1	2	3	4	5	6	7					
1	131	8	15	35	27	5			90	0	3		2
2	142	12	14	32	27	7			92	6	3		1
3	102	13	15	32	28	8			96	3	2		1
4	111	11	17	32	31	12			103	6	2		0
5	125	12	17	26	26	12			93	5	13		2
6	113	12	15	25	26	10			88	2	4		0
7	60	13	20	26	25	11			95	6	11		0
8	87	12	19	25	24	12			92	5	0		2
9	143	11	23	21	29	13			97	8	1		2
10	81	13	22	27	24	15			101	2	2		1
11	133	9	18	46	0	11			84	5	24		1
12	113	18	16	26	2	13			75	9	18		1
13	103	14	11	24	1	13			63	1	1		1
14	70	14	13	25	3	13			68	4	3		0
15	112	13	18	27	4	8			70	7	14		0
16	108	12	13	23	11	10			69	8	3		0
17	81	15	13	25	10	11			74	7	7		1
18	110	12	15	21	9	10			67	6	12		1
19	90	11	11	22	11	17			72	7	2		1
20	93	10	9	19	15	18			71	8	9		1
21	64	12	14	17	17	13			73	12	3		1
22	115	12	14	14	16	13			69	3	7		1
23	121	12	14	15	18	13			72	3	2		1
24	63	13	21	21	22	15			92	21	2		1
25	82	13	22	21	23	14			93	8	1		3
26	126	13	23	21	23	13			93	9	4		2
27	44	14	24	23	25	16			102	11	3		1
28	93	14	23	23	23	15			98	6	7		1
29	104	15	24	23	25	16			103	18	1		3
30	121	15	25	22	25	16			103	10	1		3
31	136	15	23	20	23	14			95	11	0		3
合計	3177								2,553	217	165		38
1日(平均)	(102)								(86)	(7.0)	(5.3)		(1.2)

1985. 2月

3月

日	外来		病棟							新入院	退院	行不明	死亡
	1	計	1	2	3	4	5	6	7				
1	100	14	23	23	23	13				20	9	7	2
2	141	13	23	21	23	16				12	9	4	2
3	122	15	21	20	20	15				10	11	0	2
4	145	13	19	23	21	14				1	0	0	0
5	103	15	25	21	25	18				11	1	0	0
6	82	16	23	24	20	15				6	12	0	1
7	146	15	19	27	18	19				6	11	0	1
8	103	13	23	26	24	16				11	7	0	2
9	84	12	25	24	24	14				9	3	1	1
10	117	14	25	24	20	14				9	5	0	1
11	88	16	20	24	18	16				11	19	0	0
12	116	14	15	26	15	12				9	17	1	3
13	92	17	17	27	14	13				11	3	1	1
14	54	15	23	23	20	17				12	7	0	1
15	103	16	20	25	22	18				14	7	0	3
16	102	14	21	26	24	18				12	12	0	1
17	109	16	22	31	24	18				11	5	1	1
18	97	17	23	32	26	16				12	6	1	1
19	117	17	23	34	25	16				9	8	1	2
20	137	17	25	32	26	14				10	8	1	1
21	104	18	26	28	26	12				8	7	2	3
22	139	15	19	23	25	11				4	16	2	2
23	72	15	18	23	28	10				5	8	0	1
24	86	14	17	24	24	10				7	9	0	0
25	93	12	18	24	22	12				9	10	0	0
26	97	14	17	19	20	12				10	8	1	1
27	77	16	17	17	19	12				4	0	0	1
28	428	14	18	15	18	11				4	10	1	0
合計	3254									2820	257	226	37
(1日平均)	(116)									(101)	(9.1)	(8.1)	(1.3)

日	外来		病棟							新入院	退院	行不明	死亡
	1	計	1	2	3	4	5	6	7				
1	120	12	16	17	17	22	14	4		85	7		0
2	326	10	17	14	21	13	6			81	8		1
3	112	11	16	15	20	18	5			85	2	1	0
4	429	13	11	13	12	21	13			83	7		1
5	341	15	12	12	10	15	13			77	5		1
6	248	14	14	12	13	16	12			81	4		0
7	16	12	3	11	5	18				49	9		2
8	30	12	8	10			(CLOSED)			44	3		1
9	118	12	7	9	14	14				42	5		0
10	20	9	7	7	11	11				36	0	4	2
11	20	11	7	7	7	7				32	2	7	0
12	31	12	10		5	5				27	2	7	0
13	102	12	9		7	7				28	8	6	0
14	57	13	10		7	7				30	4	1	1
15	94	12	10		10	10				32	9	7	0
16	72	11	11		12	12				34	6	4	1
17	63	12	8		13	13				33	3	3	0
18	101	8	7		13	13				28	6	8	1
19	100	10	7		12	12				29	7	5	0
20	108	7	8		11	11				26	1	3	1
21	54	8	4		9	9				21	3	7	0
22	100	8	5		12	12				25	5	1	0
23	62	6	4		12	12				22	2	5	0
24	177	9	6		13	13				28	4	2	0
25	87	9	5		12	12				26	4	4	0
合計	2988									1,084	110	149	12
(1日平均)	(120)									(4.3)	(4.4)	(6.0)	(0.5)

1984. 12月17日~1985. 3月25日 計99日

外来患者 入院患者 7,936人
 新入院 729人
 退院 637人
 死亡者 121人
 合計 11694人
 1日平均 118人 80人 7.4人 6.4人 1.2人

(人)

450

400

350

300

260

240

220

180

160

140

120

100

80

60

40

20

15

10

5

5

10

15

20

(人)

6

4

2

図-5

JMTDR HOSPITAL 入退院、外来、死亡患者

外来患者

入院患者

新入院患者

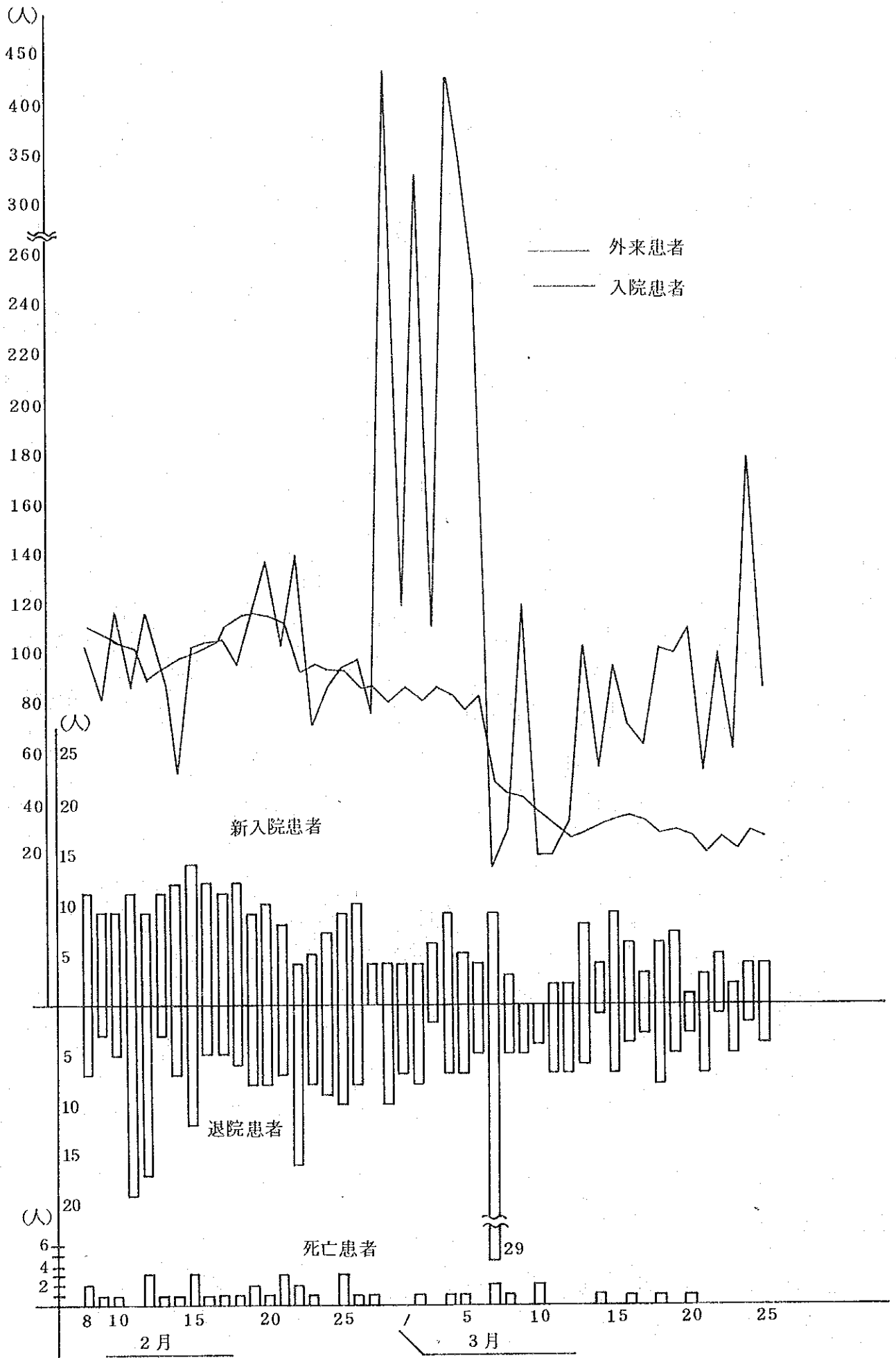
退院患者

死亡患者

17 20 25 30
1984年12月

5 10 15 20 25 30
1985年1月

5 7
2月



8. JMTDRエチオピア派遣の動き

8. JMTDR エチオピア派遣の動き

年	月	日	曜 日	内 容
59	10.	29	月	JMTDR アフリカ小委員会開催 (JMTDR のアフリカ飢餓被災民救済について検討)
	11.	14	水	本多委員長, 山本機材委員, 村越 JICA 医療協力特別業務室長の 3 名が実態把握のため安倍外務大臣のアフリカ歴訪に同行出発
	11.	19	月	上記歴訪チームエチオピア北部チグレ州マカレの飢餓被災民収容キャンプを視察
	11.	28	水	運営委員会, 総務小委員会, アフリカ小委員会を開催 (1985 年 3 月末を期限とする 4 次のチームをエチオピア北部のマカレへ派遣決定)
	11.	29	木	安倍外務大臣主催の節食ランチ兼アフリカ歴訪報告会が外務省にて開催される (JMTDR の派遣を表明)
	11.	30	金	RRC (エチオピア政府救済復興委員会) が JMTDR の受入れを歓迎する旨表明 (外務公電による) 第 1 次チーム編成
	12.	1	土	コンタクト・チーム (外務省アフリカ第二課山口首席事務官及び JICA 医療協力特別業務室後藤職員) の派遣打合せ
	12.	3	月	コンタクト・チーム LH641 にて出発
	12.	7	金	第 1 次チーム全員及び第 2 次以降の各チームのリーダーが安倍外務大臣に表敬。コンタクトチームより国際電話 (現地のロジスティックについて)
	12.	10	月	第 1 次チーム出発打合せ (於 JICA), JICA 有田総裁に表敬 LH641 にて出発
	12.	12	水	第 2 次チーム編成, 「エチオピア早魃被災民救援医療チームへの参加可否問い合わせについて」を登録者に発信
	12.	16	日	コンタクトチーム帰国
	12.	17	月	コンタクトチームの報告を受ける。第 1 次チーム鶴飼団長より報告 (公電) (医薬品追送依頼など)。
	12.	18	火	JICA カイロ事務所へ輸液の調達, アジスアベバへの送付をテレックスにて依頼
	12.	20	木	第 2 次チーム出発打合せ (於 JICA), BA006 にて出発

年	月	日	曜 日	内 容
	12.	24	月	第1次チーム石田、和泉団員より電話（活動開始状況、生活環境等についての報告）
	12.	25	火	第3次チーム編成、第1次チームの田辺調整員へ電話（第1次チームの帰国日程、3次チーム派遣に関する連絡）
	12.	26	水	輸液をエジプト、カイロで調達し在エチオピア日本大使館宛送付
	12.	27	木	第1次チーム帰国（調整員を除く）、田辺調整員（アジスアベバ）より電話（調整員の人数調整についてなど）
	12.	30	日	第1次チーム調整員帰国
60.	1.	1	火	JMTDR NEWS 第4号発行「JMTDR;エチオピアへ派遣」
	1.	9	水	第1次チーム帰国報告会（於外務省）、第2次チーム今川団長（アジスアベバ）より電話（第3次携行機材についてのアドバイス）
	1.	10	木	第2次チーム今川団長へ電話（医薬品調達について）
	1.	14	月	第2次チーム今川団長より報告（公電）（活動状況、医薬品調達について）
	1.	18	金	第2次チーム本多調整員（マカレ）より電話（携行機材についての依頼及びホテルの状況報告）
	1.	21	月	第3次チーム出発打合（於JICA） LH641にて出発
	1.	23	水	第4次チーム編成
	1.	27	日	第2次チーム帰国
	1.	28	月	第2次チーム今川団長の報告を受ける（於JICA）
	2.	6	水	第3次チーム谷団長よりテレックス受信（活動現状報告、撤退についての状況判断について）
	2.	7	木	第2次チーム帰国報告会開催（於外務省）森山真弓政務次官に表敬。 第3次チーム谷団長より電話（撤退の件）
	2.	22	金	第3次チーム谷団長よりテレックス受信（第4次チームの携行機材に関するアドバイス）
	2.	25	月	第4次チーム出発打合せ（於JICA）、LH641にて出発
	3.	3	日	第3次チーム帰国（不明熱の佐藤調整員を成田から荏原病院へ移送）
	3.	4	月	第3次チーム谷団長の報告をJICAにて受ける。
	3.	7	木	第4次チーム鈴木団長より報告（公電）（活動状況）、安倍外務大臣主催アフリカ救援関係レセプションに本多委員長、1. 2. 3次チーム団長、JICA村越室長出席

年	月	日	曜 日	内 容
	3.	11	月	第4次チーム鈴木団長よりテレックス受信(ワクチン要請について他)
	3.	14	木	第3次チーム帰国報告会(於外務省), 森山真弓政務次官へ表敬。 第4次チーム大矢調整員より電話で延長の可能性について問合せ。
	3.	15	金	上記大矢調整員(アジスアベバ)へJICAより電話。1週間延長についてチームの意向確認を依頼する。
	3.	16	土	第4次チームへテレックス発信(滞在延長について)
	3.	18	月	第4次チーム大矢調整員(アジスアベバ)に電話(現地業務費について), 第4次チーム鈴木団長より延長について全員同意の回答受ける(公電)
	3.	27	水	第4次チーム鈴木団長より報告(公電)(エチオピアチームへの任務移管, 機材供与について)
	3.	28	木	第7回運営委員会開催(於外務省, スーダン国への医療チーム派遣について討議)
	4.	7	日	第4次チーム帰国
	4.	12	金	JICA総裁主催夕食会(各チーム団長出席)
	4.	15	月	第4次チーム帰国報告会(於外務省), 森山真弓政務次官へ表敬

9. JMTDRエチオピア派遣に要した経費

9. JMTDRエティオピア派遣に要した経費

1) 派遣経費	67,606千円	
2) 現地業務費	10,132千円	
3) 実施計画費	17,293千円	
4) 携行機材費	74,571千円	(JMTDR活動を補完するための医薬品)
5) 所属先補填経費	7,967千円	供与(49,262千円)含む。
合計	177,569千円	

10. JMTDR チームに送られた感謝状と盾

10. JMTDR チームに送られた感謝状と盾

(盾の文言)

GIFT FOR CONTRIBUTION TO JAPAN
MEDICAL TEAM FOR THEIR HELP
TO THE DROUGHT VICTIMS FROM 10TH
DECEMBER 1984-25TH MARCH 1985
IN MEKELLE TIGRAY REGION ETHIOPIA
MARCH 23, 1985

DSSTA MESERSA (signed)
DEPUTY ADMINISTRATOR

(同 裏面)

LEAKE G. LIBANOS (signed)
CHIEF CO-ORDINATOR OF
SHELTER NO.1

(写真説明)

この盾は紀元前に建造された阿克苏ムの石塔を模したものであり、表面には南アラビアの幾何学的レリーフが施されている。



የጤና ሚኒስቴር ጽ/ቤት
የደቡብ ምዕራብ ምክር ቤት ጤና ጽ/ቤት
ድህረ ገጽ 1/1

Ref: No. 3722/5/351/77

March 23, 1985.

" TO WHOM IT MAY CONCERN "

The Japan Medical Team for Disaster Relief(JMTDR) arrived at Makalle on December 10, 1984 and stayed helping the Drought Victims until March 31, 1985 for four months. The Medical Team had brought with him, 16 tons of medical supplies such as I.V. fluids and other items for the displaced individuals.

The Team has contributed a lot in accomplishing its duty efficiently with excellent discipline. This we believe has alleviated the health problems to some extent. Due to the teams efficient handling of the drought victims, the Regional Health Department has great respect for the team and will never forget the great deeds they have accomplished.

On behalf of the needy people we extend our thanks both to the team and the Japanese Government.

Therefore, we wish the Medical Team the best of luck in its future career both at its home country and abroad.



Sincerely yours,

Solomon Tesfa Mariam
SOLOMON TESFA MARIAM
PROVINCIAL MEDICAL
OFFICER OF HEALTH

あ　と　が　き

国際協力事業団

医療協力部長 長谷川 豊

昭和57年3月に発足して以来、始めて派遣したJMTDRが全員無事で初期の目的を達成されたことは、まず何よりもご同慶に堪えません。

JMTDRは、当初、地震、火山爆発、台風等の突発的自然災害による被災民の医療救援という考え方から出発したため、今回のような長期にわたる早魃という自然災害に対する準備、対応の面で大きなとまどいがあったことは否めません。たとえば、必要機材の準備や、医師等の専門分野については、救急外科よりも内科とくに伝染病、低栄養に関するものが重要でした。また、地震等の突発的自然災害ならば、せいぜい2週間ぐらいの救援で、一応平常状態に戻ることが予測されますが、今回のような場合は、極めて長期にわたる災害であり、「引け際」を決定することが非常に困難でありました。

このような問題点を含めて、数多くの貴重な経験がこの報告書の中に語られております。これら一人一人の体験、チーム毎の報告が60年7月に開かれた報告研修会で、共通のものにインテグレートされ、より客観的、分析的なものに発展し、今後のJMTDRの活動の基盤として大いに活用されることでしょう。

今回のJMTDRにおいて活躍された32名の方、および、その派遣を支援いただいた関係者の皆様方に改めて厚く御礼申し上げますとともに、JMTDRの更なる充実を祈念しつつ「あとがき」に代えさせていただきます。

JICA